
ようこそ異世界へ！

創輝 咲弥

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ようこそ異世界へ！

【Nコード】

N9250Z

【作者名】

創輝 咲弥

【あらすじ】

この世で、交通事故に遭い、死んだ佐々木 小羽斗
彼は、ある人物のおかげで転生した
そして着た場所が…魔法の世界？？

説明（次回から本編）（前書き）

今回は説明です

説明（次回から本編）

この世で平凡に暮らしている佐々木 小羽斗ささき こはとはある日、交通事故に遭った

彼は死んだ、しかし、彼は事故に遭った後、夢の中みたいな変な空間で、こんな声を聞いたのだった：

魔法の世界で繰り広げられるコメディーあり、恋愛あり？？
百合百合いっぱい！そのほかいっぱい！でいく転生物語！！

この小説を読む上で重要なこと！

その壺 細かい事は気にした方が負け！w

その式 そんなに上手く小説書いてない！？

その参 更新スピードの遅さ！！

以上の事が大丈夫の方はどうぞ！！

無理いゝって方も何とかしてどうぞ！！

ようこそ魔法の世界へ！

俺は死んだ？

ああ、死んだ、だって車に轢かれたから

さあどうしたもんか…

転生とか無いかな？

あれば絶対やるのに、どんなのに転生しようとも

そう考えているとあたりが真っ白に光った

光は次第に小さくなり見えてきたのは真っ白なところだった

「なんだここ？」

そう呟いたそしたら何処からか声が聞こえてきた

「ねえ、転生したい？ いや、してもらおうね」

「え？」

「だから、あなたに転生してもらうは、まあ好意としてあなたの面影とか、いろいろ設定させてもらうから、安心しなさい、じゃあ」

え、だからなんなんだ？

なへやだった

なんだろう、豪邸の家の部屋だろうか？

そこで俺はあの声を思い出した

そうだ！なんだったんだあの声は、もしかして俺、転生したのか？？

そんな大発見をしてもう脳がパニックになりそうになった時、ソファーに女の子が座っているのに気がついた

ん？寝ているのかなあ？

自分は女の子の近くに行って様子を見てみた

誰だろう？ん？良く見てみれば、耳が生えている…猫耳？ついでに赤色の髪の毛、

そして服装は、メイド服？

この子メイドなのかな？

どうしようか、おでこでも突いてみようかな？

そして俺は女の子のおでこを突いた、

反応なし、かぁ、次は頬っぺたでも触ろうか

プニプニプニプニ

気持ちイ、じゃなくて！…起きないなあ
どうしようか…そうだ

プニプニプニプニプニプニプニプニプニ……

ずっと起きるまで触ることにしよう

「んゝゝへ？」

そんな事していると女の子が目を開けた……

あ、起きた……あ、この状況……どう説明しよう

そう今の状況、ソファアに座っている女の子の前に床に膝で立って
頬っぺたを触っている俺

「あ、えっと、そのおゝ……おはよう」

これしか言えないや……

「あ、おはようございます……えっと、私、寝てしまっていましたか
……ごめんなさい、私は、あなた担当のメイドでございます、主にご
主人様にこの世界での説明やその他もろもろを教えて差し上げます」

「そ、そうなんだ……え？って、ここどこなの？もしかして転生した
の？」

急になんかひらめいた、なんでさっきまで思いつかなかったんだ

「はい、そうです、ここは、魔法の世界のアイリーナ国です、そし
てあなたはここで戦ってもらおう兵士です」

そうなんだ、俺、魔法の世界に転生したんだ、てことは、魔法を

使えるのかな（わくわく）

「あ、そうでした、まだご主人様は自分の姿を見てませんね」

そう言って渡されたのは手鏡、私はそれを覗き込んだ

「え、うそ？これが自分？」

そこに居たのは…金髪でツインテールの女の子だった
これが俺？女の子？！…性転換もしたの…

「ご主人様、あなたはこの国の兵士となってもらいます、大丈夫です、あなたは人間、この世界では有力な強い種族です」

そんな事言われても…いや、まだ強いならいいか、でもなんで兵士なんだ？

「そうですねー、それはこの国が今、隣の国と戦争をしているからです」

そうなんだ、あれ？今、心読まれた？

「ふふっ、ご主人様が考えたことなら近くに居れば私の中ではそのまま聞こえるのです」

へえ〜そうなんだ…これも聞こえてる？そう聞いたらコクツと頷いたのでそうらしい

「ところであなたの名前はなんて言うの？」

あれ？喋り方が女口調になっている、まあ女の子なんだし丁度いいね

「あ、まだでしたか、すみません、私の名前は、ルーニャと申します」

「そう、ルーニャちゃんね、よろしくお願いします」

うん、可愛いなあ、ルーニャちゃんは

「聞こえてますよ、ふふっ」

「うーそっただけ分かるなんてせこいよ〜」

そんなことを言って苦情を言ったがどうにかなるわけではない

「そうだ、ご主人様のお名前は…たしかあ〜コバトさん、でしたかね？国王様に付けていただいたお名前です、良いですね」

「うん、そうだね…そうだ、さっき言ってた兵士になるやつだけど…弱いと思うけどやっていい？」

「もちろんですとも、やっていただけて光栄です、あと、戦い方や体力などはこれから私と一緒に練習していきましようね、私の役目の1つです」

そうか、なら心配なさそうだね…あ

「ねえ、その練習って難しい？」

「そうですねえ、まあ多少大変ではありますがご主人様は人間ですからすぐになれると思います」

「そっか、ありがとう」

うーん…まあいつか…サボりたいときはサボろう

「ふふ、駄目ですよ？サボろうとするならお仕置きしますから」

「はい、たぶんサボりません」

あーこわい、まあまじめにやってお手伝いでもしましょうか

「そうでしたそうでした、起きたら国王様に挨拶に行かなければなりません、とりあえずこの服に着替えてもらってもいいですか？」

そう言われてもらった服は半袖、スカートに、羽織るもの、どれもきれいなものだった

「うん、じゃあ着替えるね…」

あう、上手く着れないや…だって、戦いに適した服なのか知らないけどベルトとかスカートとか難しいもん…

「ご主人様、手伝ってあげましょうか？」

「だ、大丈夫よ、子供じゃないんだから一人でできるもん！」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9250z/>

ようこそ異世界へ！

2011年12月29日01時55分発行